

審査員(最終審査会)

- 各務 茂夫

国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授

産学協創推進本部 副本部長

一橋大学商学部卒、スイス IMEDE(現 IMD)経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹等を歴任。2002年東京大学大学院薬学系研究科寄付講座教員となり、2004年東京大学産学連携本部(現産学協創推進本部)教授・事業化推進部長に就任。

2004年～2013年まで(株)東京大学エッジキャピタル監査役。2013年～20年3月教授・イノベーション推進部長。2020年4月より現職。

一般社団法人日本ベンチャー学会会長。

2005年「東京大学アントレプレナー道場」開講以来、学内に様々な起業家教育プログラムを展開。現在、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業 EDGE-NEXT 東大代表者。今年度、大学発新産業創出プログラム(START)スタートアップ・エコシステム形成支援事業に「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」が採択。東大プログラム代表者。



- 安倍 博文

国立大学法人電気通信大学 企画調査室 客員教授

NPO法人uecサポート理事長

博士(経済学)

例えていうと事業計画は電流の代わりにお金を流すビジネス・アンプのようなものです。アンプの部品は「事業の主体者、顧客、商品・サービス、営業、時期・時間、場所」などです。事業の主体者(みなさん)が部品をつないだビジネス・アンプにお金を流すと日本と世界を良くするサービスが起動して、お金も増幅されるはず。夢とやりがいがありますよね。TCP ではみなさんが、夢をどう増幅させて経済効果を得るのかについて、しっかり物語ってください。期待しています。



- 阿部 浩之

国立研究開発法人国立成育医療研究センター 知財・産学連携室 室長

大手外資系製薬メーカーほか、医薬品業界において、川上(研究開発)から川下(流通・調剤・販売)まで、あらゆる職種に従事。2015年、国立成育医療研究センター 知財・産学連携室長に就任し、小児製剤開発、産学連携、センター内のシーズ発掘およびマッチング企業の探索を推進。2017年、日本医療研究開発機構

臨床研究・治験基盤事業部に出向し、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等においてアカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐプログラム等を推進。1986年、富山医科薬科大学(現 富山大学)薬学部薬科学科

卒、2013年、武蔵野大学大学院薬科学研究科博士後期課程修了(博士(薬科学))、薬剤師、ITストラテジスト(経済産業省認定 情報処理技術者レベル 4)



- 森本 茂雄

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事

旭化成工業株式会社を経て、科学技術振興機構(JST)の前進である新技術事業団(JRDC)に入所。基礎的研究支援(さきがけ、CRESTなど)、研究成果展開および産学連携支援(A-Step、START、Sイノベなど)、国際共同研究支援(ICORPなど)、拠点型研究開発支援(COI、イノベーションハブ)、未来社会創造事業など、主に研究開発ファンディング業務に従事。2022年4月より現職。現在、シーズ育成から企業化開発、国際共同研究、ムーンショット型研究開発などのファンディングプロ

グラムを担当。



- 田村 真理子

一般社団法人日本ベンチャー学会 理事・事務局長

(株)日本経済新聞社、(株)日経 BP 社を経て、2000 年より一般社団法人日本ベンチャー学会事務局長。早稲田大学アントレプレヌール研究会理事、早稲田大学女子大生起業家交流会代表。経済産業省、文部科学省等政府委員等。主にベンチャー企業や起業家に関する調査・取材を手掛けながら、起業家教育や事業創造論、事業計画、キャリアクリエイト等を早稲田大学、上智大学、事業創造大学院大学等で担当している。一般社団法人日本ベンチャー学会では 1,200 人の会員を中心に、中小・ベンチャー企業が創出しやすいエコシステムの環境創りに向けた産学官連携の支援活動などを行っている



- 尾崎 典明

エスファクトリー・代表

2004年九州工業大学大学院・工学研究科物質工学専攻修了

同年コンサルティング会社へ入社、中小から大企業に対する新規事業・新商品開発支援および知財戦略立案等の業務に携わる。

2009年エスファクトリーを創業、企業に加え、地方自治体、NPO、スタートアップに対しアドバイス等行う傍ら、経済産業省や中小企業基盤整備機構等のコーディネータ、アドバイザー等を歴任。

また一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズではスタートアップに対し実践的なメンタリング等を行う。およそ18年間に渡り、ものづくりやサービス、業種業態問わずまたその事業ステージによらず、それぞれの企業が有する課題に応じた支援を実践してきたことから、日本全国に企業や官公庁、地方自治体、大学等、幅広いネットワークをもつ。

現在、筑波大学国際産学連携本部客員教授、一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズ副代表理事も務める。



審査員(書類審査・ピッチ審査)

- 井本 潤一

ニッセイ・キャピタル株式会社 シニアベンチャーキャピタリスト

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。富士フィルム(株)にて医薬品等の研究開発に従事したのち、Thomson Reutersにて特許・文献情報関連業務に従事。現在は、ニッセイ・キャピタル(株)にて主に研究開発型ベンチャー企業への投資を担当。



- 内田 毅彦

株式会社日本医療機器開発機構 代表取締役

内科・循環器科専門医。ハーバード公衆衛生大学院修士・ハーバード経営大学院GMP修了。日本人として初めての米国食品医薬局(FDA) 医療機器審査官を務める。外資系医療機器メーカー勤務経験も有し、医療機器開発のスペシャリスト。医療機器開発のプロセスに幅広く精通し、多領域でグローバル製品の事業化を行っている。医療機器以外では再生医療、プログラム医療機器、ヘルスケアサービス等のインキュベーションも実施している。



- 各務 茂夫

国立大学法人東京大学 大学院工学系研究科 教授
産学協創推進本部 副本部長

一橋大学商学部卒、スイス IMEDE(現 IMD)経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に創業パートナーとして参画、取締役主幹等を歴任。2002年東京大学大学院薬学系研究科寄付講座教員となり、2004年東京大学産学連携本部(現産学協創推進本部) 教授・事業化推進部長に就任。2004年～2013年まで(株)東京大学エッジキャピタル監査役。2013年～20年3月教授・イノベーション推進部長。2020年4月より現職。

一般社団法人日本ベンチャー学会会長。

2005年「東京大学アントレプレナー道場」開講以来、学内に様々な起業家教育プログラムを展開。現在、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業 EDGE-NEXT 東大代表者。今年度、大学発新産業創出プログラム(START)スタートアップ・エコシステム形成支援事業に「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」が採択。東大プログラム代表者。



- 曾我 弘

株式会社カピオン 代表取締役

新日鉄退社後、1991年ー2010年までシリコンバレーに移住。画像圧縮技術開発のベンチャー企業Eidesign Technologies,Inc.を設立、経営。

1996年にSpruce Technologies,Inc.を設立。DVDオーサリングシステムを開発・商品化し、今日のDVD普及の一翼を担う。旗艦商品

「DVDMaestro」は最初の顧客がDisneyでハリウッドでのデファクト標準になった。最終的に、同社をAppleへ売却。

その後SVJEN(NPO)を設立し、バイオ関連ビジネスや、日米のスタートアップのメンターとして支援活動を行う。2010年末に帰国後、

能登左知と(株)カピオンを共同で設立しNEDOと協力してスタートアップ企業支援を行う。2012年Blue Jay Energyをシリコンバレーに設立、

日本の技術をもとにグローバル事業展開を推進。Kapionは大学発ベンチャー支援(東大)やメンター活動と並行して、慶應大学リーディング大学院で

起業講座を担当(2012~2016)。現在名古屋大学卓越大学院の起業メンター。

また一般社団法人カピオンエデュケーションズ(NPO)主催の

高校生を対象とした国際起業家育成イベント「GTE(r)2016イノベーションチャレンジ」を和歌山市で開催。コロナ禍のため2020から高校生を対象としたDECA JapanのOnline起業大会を開催中。



- 橋爪 克弥

Beyond Next Ventures 株式会社 執行役員

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了後、ジャフコ入社。

入社後10年間、一貫して大学発ベンチャーへの出資に従事。産学連携投資グループリーダー、JST START代表事業プロモーターを歴任。ベンチャーへの出資を行いながら、自ら経営者となりバイオベンチャーの創業を率いるなど、複数の大学発ベンチャーの創出に関与。出資先はアスタミューゼ、マイクロ波化学、リバーフィールド、Biomedical Solutions(大塚HD傘下へ売却)など。

2020年に Beyond Next Venturesへ参画し、医療機器、デジタルヘルス、エレクト

ロニクスなどへの出資を担当。



- 前田 信敏

NV Ventures株式会社 代表取締役社長

日本インベストメント・ファイナンス株式会社(現大和企業投資株式会社)や、ウェルインベストメント株式会社勤務を経て、2019年NV Ventures株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。20年以上に渡り、大学発を中心とする技術系スタートアップの支援を行なっている。文部科学省(現JST)STARTプロジェクト事業プロモーター、内閣府技術委員・アドバイザー等を歴任。現在、NEDO事業カタライザー、川崎市Kawasaki Deep Tech Acceleratorメンター、K-NICサポーター、KSPイノベーションビジネススクールメンター、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 イノベーション委員会 委員等を務める。



- 松田 一敬

合同会社SARR 代表執行社員

慶応大学経済学部卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当する。その後、国内初の地域密着型ベンチャーキャピタルを設立。2000年6月に札幌Biz Cafeを設立、サッポロバレーのITベンチャーを支援。地元IT企業の株式公開に繋げる。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号(北海道大学発)の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の

国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積む。2011年4月に合同会社SARRを設立。起業家教育、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。



- 東 博暢

株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 主席研究員
大阪府立大学大学院工学研究科(現:電子・数物系専攻)修士課程修了。ベンチャー支援や社会企業家育成支援、ソーシャルメディアの立ち上げを経て、2006年日本総合研究所入社。情報通信分野(ICT)を中心に、PMI、新規事業策定支援、社会実証実験を通じた法制度改正・ガイドライン策定支援等のコンサルティング/インキュベーション活動実施している。ICT 融合領域として、FinTech、メディカル・ヘルスケア、都市開発(スマートシティ)、サイバーセキュリティ、教育等、幅広く対象としている。近年は、政府や海外技術系シンクタンクやアクセラレーターと連携し、ロボット・AI、バイオ・ライフサイエンス等の科学技術の商業化を推進するオープンイノベーションプログラムを実施し、技術系ベンチャー支援・起業家支援にも取り組む。その他、総務省等の政府機関、自治体の委員、民間団体の理事、外部アドバイザー等も歴任している。



(順不同)

2022年 メンター一覧

メンター

- 安達 俊久

GiTV 株式会社 代表取締役社長

東京工業大学電気工学科卒業後、伊藤忠商事に入社。

1982年から1988年まで英国ロンドンに駐在し、日本製電子機器の欧州市場開拓と拡販に寄与。1990年からは、欧米のITベンチャー企業の日本市場における商権獲得と投資事業に従事。1995年から2002年まで、伊藤忠テクノソリューションズでビジネス開発部長、事業企画室長を務め、国内外の先端ITベンチャー起業家及びシリコンバレー Sand Hill Road VCやイスラエルのエコシステムなど幅広い人脈を構築。2002年から2015年まで、伊藤忠テクノロジーベンチャーズ代表取締役社長として、3本総額211億円のVCファンド運営責任者を務める。2011年から2014年まで、一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会の会長を務め、規制緩和とベンチャー成長戦略の提言、実行の貢献。

スタートアップと大企業の共創アライアンス作りとオープンイノベーション創出の経験豊富。



- 跡部 悠未

国立大学法人東京農工大学 未来価値創造研究教育特区 准教授

Venture Café Tokyo TSUKUBA CONNÉCT マネージャー

筑波大学芸術専門学群、豊橋技術科学大学大学院、マレーシア工科大学にて建築・都市計画を専攻。博士(工学)、一級建築士。

都市計画コンサルでの設計実務後、トヨタ産業技術記念館、名古屋大学にて産業技術のアウトリーチや研究成果の事業化業務を担当。産業技術総合研究所スタートアップアドバイザーとして再生医療、脳科学、センシング、ロボティクス分野等の研究者と共に1~2年かけて技術の用途開拓から試作品制作、実証実験、企業/顧客訪問、資金調達など二人三脚で研究・事業開発を行う。2022年から東京農工大学にてアントレプレナーシップ教育、起業支援を行う。

産業技術総合研究所研究支援アドバイザー、愛知県立芸術大学非常勤講師も兼任。



- 潮 尚之

ITPC (International Technology Partnership Center) プリンシパル

シリコンバレー及び東京/大阪を拠点として、北米の有望なベンチャー企業の発掘と日本進出のサポート、オープンイノベーションを推進する日本企業の海外動向調査やベンチャー企業との協業サポートなど、International Business Developmentの専門家として活動中。専門分野はオートモーティブ、セキュリティ、画像処理、センサ/デバイス、AI、IoT、AgFoodTech、InsurTech及びモノづくりなど。

また、Technology Commercializationの専門家として、大阪大学共創機構・特任教授、大阪公立大学研究推進機構・特任教授、山形大学産学官連携推進本部・特任教授、山梨大学研究推進・社会連携機構・客員教授、東京大学TLOアドバイザー、関西大学SFinXプロジェクト・アドバイザー、NEDO技術委員/事業カタライザー及びJST-START評価委員などを務め、大学発の技術シーズの社会実装や大学発ベンチャーの起業を推進するとともに、NEDO-TCP、III未来、Mt. Fujiイノベーションエンジン、けいはんなリサーチコンプレックス、大阪イノベーションハブ及びT-CEPなどの産官学連携プロジェクトのメンター/アドバイザー、川崎市産業振興財団の新事業コーディネーター、品川ビジネスクラブビジネス創出懇談会アドバイザー及びリニアやまなしビジョン最先端企業等誘致アドバイザーなどを担当し、産官学連携の推進や地方の中小企業の新規事業開発や米国進出なども支援。

2006年に独立するまでは、松下電器産業(現パナソニック)において、ITS(高度道

路交通システム)をはじめとした様々なビジネス・技術分野でのグローバルな事業開発やアライアンスを推進。米国(シリコンバレー及びプリンストン)駐在時には、ベンチャー企業や大学との技術連携推進の責任者を担当。慶応義塾大学文学部人間科学専攻卒。



- 桑原 優樹

JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社
パートナー

2012年、日本総合研究所に入社。通信・メディア・ハイテク産業等における事業戦略策定・研究開発戦略策定・新規事業創出などに関するコンサルティング業務に従事したほか、国の研究開発型ベンチャー支援プログラムの運営にも従事。

2018年、産業革新機構(現 INCJ)入社、スタートアップへの投資や大企業との共同投資による新会社の設立などのベンチャー・グロース投資および投資先のバリューアップに携わる。グループの組織再編に伴い 2020年8月より JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社に参画。

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了。



- 三枝 裕和

SaiLogic株式会社 代表取締役

株式会社サエグサコオート工業 代表取締役

東京大学大学院経済学研究科(企業・市場専攻)修士課程修了。
株式会社日本総合研究所や PwCアドバイザリー合同会社で経営戦略立案、
新規事業開発、事業再生など幅広くコンサルティングを経験した後、リクルート
グループに入社。Webマーケティングの新規事業戦略担当マネージャーとして事業
を推進。現在は SailLogic株式会社を立ち上げ、コンサルティングやベンチャー
企業への出資・育成を手掛けながら、家業であるサエグサコオート工業を二代目と
して引き継ぎ、経営革新に日々取り組んでいる。



● 志水 武史

岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 特任准教授

生命保険協会、外資系保険会社勤務等を経て、1999年から(株)日本総合研究
所勤務(2004~5年に伊藤忠商事出向)を経て2019年2月より現職。日本総合
研究所在籍中は、経済産業省のヘルスケア関連ビジネス事業化支援事業に長年
関与。現在に至るまで企業や自治体等におけるヘルスケアビジネス創出の取り組
みを支援。専門分野はイノベーション、経営戦略、ヘルスケアビジネス、地域活性
化。岡山大学ではアントレプレナー関連講義を担当するほか、オープンイノベー
ション・プラットフォームである「岡山リビングラボ」を企画運営。様々なステークホルダ
ーの連繋の下、新事業・イノベーション創出に向けた取り組みを行っている。



- 瀬川 秀樹
クリエイブル 代表

NEDO(TCP/NEP)や文科省のEDGEでのメンターを多く勤める。

ベンチャーや大企業、また高校生、大学生、社会人など、特に若手の育成のための新規事業案策定の講演・研修や新規事業推進支援も多く手掛けている。得意とする特定分野の技術は特にないが、広く様々な技術の知見と理解を有する。メンタリングでは、こんがらがってしまっている課題を解きほぐし、新たなアイデアと一緒に考え、User像を磨き、Wowがある解決策を見い出し、それらを含めた魅力あるシンプルな戦略やストーリーの構築を行うことを、とにかく「楽しく」やるのが特長。「シンプルで魅力あるストーリーカ」の源泉となっているのが、もう一つの顔である「4コマ漫画作家」の活動。（「イノベーション4コマ」で検索してみてください）

2014年まで長年勤めていたリコーを早期退職。リコーでは、シリコンバレーにおけるCVC(Corporate Venture Capital)の発足と推進や、現地での新規事業の立ち上げと失敗を経験。また、日本においては新規事業開発センター副所長や未来技術総合研究センター長などを歴任し、様々な新しい事業や技術に挑戦してきた。加えて、世界の貧困層がこれからの人類と会社と自分の未来にとって重要と考え、インドの農村部におけるプロジェクトを起こし活動した。



● 田口 慶一

バイオ・サイト・キャピタル株式会社 インキュベーションビジネス部 部長代理
かわさき新産業創造センター インキュベーションマネージャー

1989年 京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻 修了後、富士フィルムに入社。

材料関係の技術開発・商品化に従事。151件の特許出願を行い、33件登録。

2007年 光学フィルム分野の関係子会社へ出向。技術部門長として、国内・韓国・中国・台湾の顧客に対し開発・商品化獲得を推進し、同社の経営再建に成功。本社の部長・主席研究員に昇格。

2014年 帰任。中国での新規ビジネス創出、全社内技術と外部ニーズをマッチングさせるオープンイノベーション、大学発スタートアップとの共同研究支援などを実施。

2019年よりNEDOに出向。TCP事業においてプログラムの制度設計などを実施し、実務責任者として活動。NEP、STSの事業担当者としてスタートアップを支援。K-NICの運営にNEDO担当者として参画。

富士フィルムホールディングスCTO室を経て、2022年バイオ・サイト・キャピタル(株)に入社。

BDマネジメントスクール修了(株)BDスプリントパートナーズ主催)



● 武田 隆史

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)

2011年株式会社Life Lab入社。HR事業責任者等を経て2016年同社取締役就任。2017年国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)入社。

新事業促進部にて JAXA 発ベンチャー支援等、宇宙ビジネス創出や宇宙技術の活用促進等に従事。2020 年より調達部にて調達制度改善等に従事。



- 竹居 邦彦

A Tech Ventures株式会社 代表取締役

千葉大学工学部修士コースベンチャー論非常勤講師

~2005年 銀行~証券~ベンチャーキャピタリスト

▷金融とベンチャーの経験を活かしベンチャーキャピタリストへ、10年間インベストメントマネージャーとして主にハイテクベンチャーに関わる。投資した金額、投資された金額は累計500億円

2005~2017年ダブル・スコープ (東証16619)取締役・CFO

▷リチウムイオン電池の重要素材セパレータの開発・製造を行う

▷2005年会社設立と同時に代表取締役(共同)、2011年に東証マザーズ、2015年東証1部に上場、時価総額1,000億円を達成 ▷2017年3月上場以来取締役CFOを退任、顧問へ

2017年~ A Tech Ventures 代表 ▷主にDeepTechの支援を行う

▷マイクロ波化学株式会社 監査役(J startup100)

▷NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)TCP、SMBC未来 :メンター

▷千葉大学工学部修士コースベンチャー論非常勤講師

▷Stanford Univ. GBS Exective Course Lead Program(2022-2023)



- 津嶋 辰郎

株式会社インディージャパン代表取締役 マネージングディレクター

大学では鳥人間コンテストのチームを設立し2度の優勝を先導。

レーシングカーコンストラクターでは、シリーズチャンピオンとなる車両開発を経験した後、半導体製造装置ベンチャーのスタートアップメンバーとして事業立ち上げを先導。現在はインディージャパンを設立し、日本およびシンガポールを拠点として大手企業における新規事業立ち上げを支援。

また、アクセラレーションプログラムZENTECH DOJOを設立し、社会的に意義のあるハードコアテクノロジーに注目したスタートアップの創業期に出資(現在15社)および取締役も兼任する。



- 所 哲哉

株式会社日本医療機器開発機構 事業開発部 マネージャー

京都大学大学院工学研究科を修了後、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)に入社。不整脈の診断治療支援システム及びカテーテルの営業を経て、安全管理、品質保証、市場開発、製品企画など、医療機器の企画から販売・市販後まで様々なフェーズに携わる。JOMDDでは、大学発シーズのプロジェクトマネジメントに従事。

幅広い医療機器ビジネス経験に基づいた事業開発が強み。

-筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻(MBA-IB)

修了

-中小企業診断士



- 中嶋 泰雄

特定非営利活動法人 産業技術活用センター 理事 事務局長

日立製作所のコーポレートベンチャーキャピタルにて、ベンチャーキャピタル子会社を設立し、ベンチャー投資、育成。東北大学にて東京大学・京都大学・大阪大学・東北大学のTech系ベンチャー創出を目指す官民ファンド(文部科学省官民イノベーションプログラム)の企画制度化を担当。経済産業省、総務省のベンチャー等委員、NEDO、民間企業のアドバイザー、メンター、各種法人などの役員委員として、オープンイノベーション、エコシステム構築、起業家、ベンチャー支援、地域活性化等を推進している。



- 野口 昌克

株式会社日本医療機器開発機構 事業開発部 部長

前職は米アボット社日本法人およびシンガポール法人で勤務。診断薬・機器、医薬品のプロダクトマーケティング及び、医療 IT のアジアパシフィックのエリアマーケティングを担当。アジアで 15 名が選出された同社 Asia Management Development Program に唯一の日本人として選ばれた。

前々職のドリームインキュベータでは、産学連携、技術系スタートアップの支援、大企業の新規事業実行支援の他、官公庁大型プロジェクトを担当。

京都大学理学部卒。同大学院博士(生命科学)修了。日本学術振興会特別研究員(DC2)として、神経難病の基礎研究にも従事。

2014 年神奈川県保健医療計画推進会議公募委員

医薬品、診断薬・機器開発のプロジェクトマネジメント業務担当



- 萩原 惇允

SyntheticGestalt Ltd. Co-Founder & COO

京都工芸繊維大学(工学)卒業後、Object of Nullを創業、代表取締役役に就任。大手企業の研究開発機関 (R&D) 向けのコンセプト設計(バイオ、人工知能、自動運転など)を担当。法政大学キャリアデザイン学部 産業文化論及び Apple Japan 本社社内向け特別講義「Creative Salon」にて特別講師を務めた。2017年 NEDO「Technology Startup Supporters Academy(SSA)」を修了。2018年 より内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期 スマートバイオ産業・農業基盤技術担当 戦略コーディネータを務める。



- 廣川 克也

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションマネージャー

一般財団法人 SFC フォーラム事務局長

SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー

三井住友銀行(1993-2004)、北海道大学(知的財産本部:2004-2005)を経て、慶應義塾大学インキュベーションマネージャーとして着任(2005-2016)、起業支援、起業教育を担当。2012年一般財団法人SFCフォーラムを設立、事務局長就任。2017年SFCフォーラムファンドを設立、ファンドマネージャー就任。大企業勤務、中央官庁勤務、数度の転職と起業、投資家、上場企業役員経験を持つ。海外学生ビジネスコンテストにアドバイザーとして参加、2009年、2010年にはGlobalTic@台湾でアジア最優秀賞、2009年I2P Global Competition ではチームを世界一に導く。2011年よりアメリカ大使館と連携して全国の学生を対象にした起業家セミナーを開催、これまで3,000人以上の学生のサポートを実施。国、地方自治体、企業、大学などと連携した起業・地域活性・人材育成に関するセミナー等を多数手がけている。山形大学客員准教授、株式会社キングジム社外取締役など兼務。



- 本藤 孝

QB Capital 代表パートナー

外資系大手コンサルティング会社にて、IT及びマネージメントコンサルティングに従事し、数々のプロジェクトに携わる。その後、大手ベンチャーキャピタルにてヨーロッパ、イスラエルへのスタートアップ投資を行う事業部の立ち上げメンバーとして参画する。フランスのベンチャーキャピタルへの出向などを含め、数々のスタートアップ投資を実施し独立。ベンチャーキャピタルのFGCを創設し、55百万ドル(約65億円)のファンドを組成。同社の代表パートナーに就任し、国内外への投資に関わり、

投資先の取締役を歴任。会社設立以前から相談を受けるなど徹底したハンズオンを実施。シード段階からの出資も手掛け、投資先数社のファウンダーメンバーとして創業し経営に参画。主に九州の大学関連の案件(共同開発を含む)、及び九州出身者など九州に関連した案件に投資を行うQBキャピタルを創設し、QBキャピタルの代表パートナーに就任。30億円の1号ファンド及び70億円の2号ファンドを組成した。20年以上にわたりスタートアップへの投資を行っている。

Eastern Michigan University BBA in Marketing卒
同大 MBA in Finance修了



- 松永 淳

国立大学法人 筑波大学国際産学連携本部 技術移転マネージャー

東京大学大学院工学系研究科化学エネルギー工学専攻修了。

富士フイルム(株)にて研究開発、技術戦略、ビジネス開発創出、CTO 室の各部において実務とマネジメントに従事。VC、大使館商務部等との連携によるグローバル視点でスタートアップとの戦略的アライアンス(少額投資を含む)の切り口で新規ビジネス創出に関わった。

2015年4月から2019年3月迄、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に出向し、研究開発型スタートアップ支援に従事。その間TCP、NEP、SUI、STS、SCA 各プログラムの制度設計と実務を通して、多数のスタートアップに寄り添った。

2021年7月から国立大学法人筑波大学にて、「産」の事業ニーズと「学」の技術シーズとのマッチングによる技術移転活動を推進中。



- 三木 寛文

MK Management, Inc. 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。モバイルインターネット領域の成長ベンチャー数社において、約15年の事業開発経験を持つ。特に、GREE株式会社では初期メンバーとして入社、GREE モバイル化、大手通信事業者や各種コンテンツ企業との提携、広告宣伝部やプラットフォーム事業の立ち上げ、中国事業統括など、数多くの新規事業開発、提携案件を担当する。

現在は個人投資家としてベンチャーやVCに個人出資しながら、数十社のアドバイザー/社外取締役を務め、事業開発や営業戦略策定、資金調達アドバイス、人事組織設計のサポート、提携先の紹介や採用支援などをハンズオンで行う。

経産省IPA未踏アドバンスビジネスアドバイザー、ビジネス・ブレイクスルー大学コンテンツ会議委員、講師。



- 南方 郁夫

クラウド・テン株式会社 代表取締役

大阪大学 基礎工学部 情報工学研究科修了。パナソニックで約30年間勤務。その間、本社R&D 部門においてソフトウェアの研究・開発の責任者としてパソコン、EWS、ワープロ、デジタルTV、携帯電話などの事業化立ち上げを主導。また、国際標準化、コンソーシアムの創設やボードメンバーの経験も多数(DLNA、

CE Linux Forum、Java Community Process、Marlin DRM など)

過去3回、合計8年間にわたってシリコンバレーでの駐在経験。

①UC バークレー EECS 客員研究員②バークレーでの人脈がきっかけとなってシリコンバレーのスタートアップと EWS 向けソフトウェアの共同開発③米国パナソニックR&D会社のプレジデント。その間に、シリコンバレーでクラウドを活用したオンラインゲーミング事業を行う社内ベンチャーを起業 2011年末にパナソニックを退職してクラウド・テン株式会社を創業。シリコンバレーの経験と人脈を活かして日本企業の新規事業創出やシリコンバレーの企業の日本戦略のコンサルティングを行うとともに、独自のクラウドサービスの開発、事業化に取り組んでいる。



- 八重樫 馨

i-BuC Ltd. President & CEO

ドイツ系化学企業、Hoechst（現 医薬部門は、Sanofi 社、スペシャリティケミカルは、Clariant 社、基礎化学は、Celanese 社）で、新事業開発、半導体製造関連機器事業の立ち上げ、日本企業との共同事業設立等を行う。

リチウム電池用セパレーター、人工心肺用中空糸、水処理用脱気膜の3事業部門を持つ Celgard Inc.（Polypore International Inc.を経て、旭化成に売却。）のマネジメント・チームとして経営に参画、日本法人セルガード株式会社代表取締役社長兼務。同グループの世界最大の鉛電池用セパレーター企業 Daramic Inc.のアジア・太平洋統括や、同グループ中国現地法人 Battery Separator Shanghai Co., Ltd.の取締役を兼務。

シリコンバレーのナノテク企業 NanoGram Corporation の上席副社長および同日本法人ナノグラム株式会社の代表取締役社長に就任。同社の帝人株式会社への売却後、帝人グループのメンバーとして同社の経営に携わる。

事業創造やベンチャー起業支援による産業創成の為に、仲間と共に日本にアイ・バック株式会社を、米国にi-BuC LLC を設立。同社CEO & President。神戸大学、東京農工大学 非常勤講師。



- 八木 雅和

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 未来医療学寄附講座 寄附講座准教授

ジャパンバイオデザイン プログラムダイレクター

光産業創成大学院大学 非常勤客員教授

(一社)臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員

2003年に東京大学大学院工学系研究科電子工学科博士課程を修了。大阪大学大学院歯学研究科助手、歯学部附属病院講師を経て、2008年に臨床医工学融合研究教育センター特任准教授に着任、生体の数理モデリング、および、専門家の知識を実装した意思決定支援システムに関する研究に携わる。

2014年にスタンフォードバイオデザイン グローバル教員研修修了後、ニーズ発医療機器イノベーション人材の育成の実現、および、イノベーションエコシステムを構築すべく、ジャパンバイオデザイン立ち上げに参画、2015年にプログラムダイレクターに就任。2019年11月、日本バイオデザイン学会立ち上げに参画。2022年4月より現職。



- 山本 辰久

ボーダレス・プランニング株式会社 代表取締役

京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了。ボストン大学大学院都市計画学科修了。

最近はイノベーション支援のためのメンタリング、ビジネスモデル策定に従事、対象分野はディープテックを軸とするヘルスケア、運輸、食品、製造、地球環境など。また、アジア(香港、シンガポールなど)を中心に海外展開にも実績が有し、海外政府機関とのコネクションもあり。

大学卒業後、横浜市都市計画局勤務の後、長年にわたり株式会社日本総合研究所で企業・公的機関の中期計画策定、改革支援等とともに、ビジネスモデル特許申請も経験。この間、神戸大学大学院経営学研究科助教授として出向。環境NGO理事も務める。

産官学のボーダレスな経歴、国際的でかつ文理を超えたボーダレスな視点から、コンサルティングに取り組む。



(順不同)